

# Network

## Practice of Network

1

取材日：2015年2月23日



糖尿病



神戸医療圏

## 神戸市の糖尿病患者の幸せを最大化すべく 病院、診療所、患者がWin-Win-Winな連携を。

### Point of View

- ① 軽症も含め全患者を対象とする糖尿病地域医療連携
- ② 診療所から受け入れ基幹病院への紹介状“のみ”を連携パスとする
- ③ 「より多くの糖尿病患者さんに元気で長生きしていただくこと」をスローガンに
- ④ 病院、診療所、患者の3者にとってWin-Win-Winなもの

地方独立行政法人神戸市民病院機構  
神戸市立医療センター西市民病院糖尿病・内分泌内科部長代行  
中村 武寛先生

医療法人社団顕鏡会神戸百年記念病院  
内科部長  
黒木 康雄先生

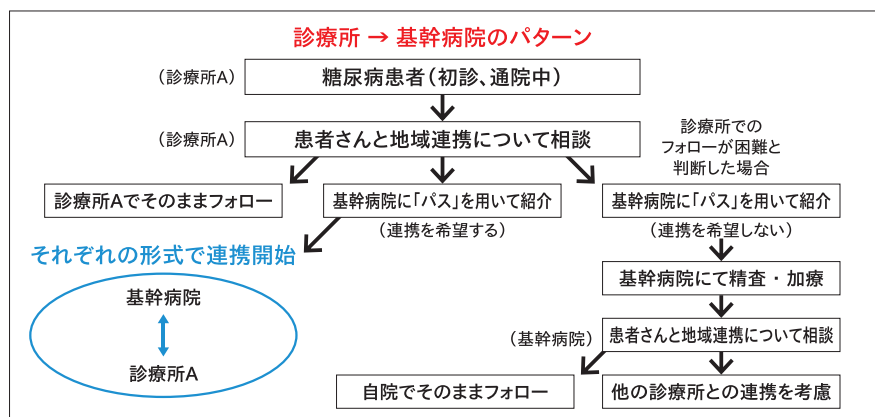
すみこ内科・循環器科  
院長  
川上 澄子先生

### 型にはまらない発想で 紹介状のみを連携パスに

神戸市では、2013年4月から神戸糖尿病地域連携パスの運用を開始して同連携パスによる地域医療連携を「Kobe DM net」と称することとした（【資料1】）。2015年2月現在、Kobe DM netには30の基幹病院が受け入れ先として名を連ねている。同連携では、基本的に診療所への受診は1ヵ月に1回を目安とし、体重管理、HbA1c検査、尿検査、処方などを行い、感冒、急性腸炎なども診察する。受け入れ基幹病院では、糖尿病を初めて指摘された方をはじめ、軽症と思われる方や糖代謝が増悪した方も含めて、すべての糖尿病患者に対し

【資料1】

### Kobe DM netの概要



「多職種による糖尿病チーム」が糖尿病療養指導を実施。また、動脈硬化を含む合併症の精査や悪性疾患のス

クリーニングなどの必要な諸検査を行い、その結果もあわせて、医師と患者の間で治療の方向性について話

し合う。その後も、必要な検査を挟みながら、受け入れ基幹病院では数ヵ月～1年ごとの定期的な診察を行い、診療所と密接に情報を交換しつつ、協力して診療を進める。

糖尿病以外で入院を必要とする病態となった際にも、対応できる範囲で基幹病院が入院加療を引き受けている。循環型医療連携パスによる、2人主治医制の枠組みと言えよう。全国を見わたすと診療所から病院への紹介に関して症状などの条件を設けているケースも多いが、Kobe DM netでは基本的に軽症も含め全患者が対象とされる。各受け入れ基幹病院で対応できる疾患、病態に違いがあるので、対応リストを作成し、診療所の医師が病院を選択できるように配慮されている（【資料2】）。

「連携パス開発に際しては、循環型パスである点を最大のテーマとしました。私の経験上、病院から診療所への逆紹介を打診すると多くの患者さんが抵抗感をお持ちになります。定期的に病院に『帰る』仕組みを示すことで、『見捨てられる』といった誤解を生じさせないようにすべきと考えました。

もう1点こだわったのは、可能な限りシンプルに仕上げることです。過去にあった地域医療連携を紐解き私なりに確信したのは、運用に複雑さをはらんだ連携パスが失敗の要因になっていることです。そこで、思い切って診療所から受け入れ基幹病院への紹介状“のみ”を連携パスにしました（【資料3】）」（中村先生）

### 連携と連携パスは3者のWin-Win-Winをめざす

Kobe DM netの誕生は、2010年10月、神戸市医師会が発した要望に呼応するかたちで手を挙げた神戸市立

医療センター西市民病院、神戸百年記念病院、甲南病院、神戸海星病院、真星病院の5病院が神戸糖尿病連携パス（Kobe DM net）運営協議会を立ち上げたのを発端としている。中村先生とともに、協議会の立ち上げ時からのメンバーである黒木先生が当時を振り返る。

「私たちはまず『より多くの糖尿病患者さんに元気で長生きしていただくこと』をスローガンに定め、診療所及び病院が密接に連携して糖尿病の患者さんに早期介入し、継続治療するのが大切である点を確認しました。

パスの開発は、中村先生が明確な構想をお持ちだったためたいへんスムーズに進みました」（黒木先生）

「私は、この連携パスと地域医療連携が病院、診療所、患者さんの3者にとってWin-Win-Winなものでなければならぬと考えました。その考えは現在も、この事案に関する私の思考と行動のベースになっています」（中村先生）

### いつでもダウンロードでき 今後の希望も記入できる

そして、2011年に始まった試験運

#### 【資料2】

#### 受け入れ基幹病院が対応できる項目（抜粋）

受け入れ基幹病院	透析医療対応	糖尿病救急対応	眼科対応
六甲アイランド病院甲南病院	○	○	○
東神戸病院	×	○	×
住吉川病院	○	○	×
甲南病院	○	○	○
宮地病院	×	○	×
吉田アーデント病院	×	○	×
六甲病院	×	○	○
神戸海星病院	×	○	○
中央市民病院	○	○	○
神戸労災病院	○	○	○
神戸大学附属病院	○	○	○
神戸赤十字病院	×	○	○
春日野会病院	×	○	×
神鋼病院	×	○	○
神戸百年記念病院	×	○	○
川崎病院	○	○	○
三菱神戸病院	○	○	○
真星病院	○	○	△
神戸アドベンチスト病院	×	△	×
神戸中央病院	○	×	×
西市民病院	○	○	△
神戸朝日病院	○	○	×
神戸協同病院	○	○	×
新須磨病院	○	○	○
神戸掖済会病院	○	○	○
県立リハビリテーション中央病院	×	×	×
みどり病院	○	○	×
伊川谷病院	○	○	○
足立病院	×	○	×

上記のほか全25項目の対応リストを作成している（2015年3月現在）

用を経て、2013年からは本格運用がスタートした。同年8月2日づけで神戸市医師会から、Kobe DM netの冊子が所属の医師に配布された。紹介状のひな形を含む冊子の内容は、そのままのかたちで神戸市医師会や受け入れ基幹病院のホームページからExcelやPDF形式でダウンロードができ、同医師会に未所属の医師も利用可能だ。

「連携パスである紹介状は、試験運用

の期間中に何度もリニューアルしました。黒木先生からも、チェックボックスのあり方について現場感覚に則したご提言をいただいたのをよく覚えています。

紹介した患者さんが帰ってこないなどの意思の疎通の齟齬を避けるため、『今後の診療について』の部分では、紹介側の意思を明示できるチェック項目をつくった点などがそれにあたります」(中村先生)

実際の使い手である、川上先生が語る。

「各項目にチェックを入れるだけで完成するこの紹介状の使い勝手は、本当に良いです。しかも、2015年の現在も定期的にリニューアルされ、そのたびにさらに使いやすくなっている。関係者の皆さんの熱意が伝わってきます」(川上先生)

現行版では、診療所の医師が今後の方向性についての希望を記入する欄も設けられているそうだ。

## 受け入れ基幹病院の医師が連携先に直接出向く

中村先生は現在、80の医療機関と連携関係を結び、約300名の患者を2人主治医制で診ている。連携に関する問い合わせを寄せた医療機関には自ら足を運んで説明し、顔の見える関係構築を心がけた成果として、本格運用開始からわずか2年でここまでの連携関係ができて上がったのだ。「最近では、逆紹介をお願いするケースが、紹介いただくケースを上まわっている状況です。病院医師としてはあふれ気味だった外来診療の負担軽減が果たせ、たいへんありがたく感じています。

逆紹介の際には、循環のサイクルとしておよそ6ヵ月ごとに病院受診している方が多いですが、病状や希

望に応じて調整しています」

中村先生と川上先生は、Kobe DM net誕生以前から連携関係にあった。しかし、今回の地域医療連携の運用開始にともない、その関係がさらに深まったという。

「Kobe DM netへの参加意思を示すと、すぐに中村先生ご自身が訪問してくださり、本当に驚きました。もちろん、うれしい驚きです。連携先に積極的に出向く先生のご方針は、地域医療連携の成功に、とても貢献しているのではないのでしょうか」(川上先生)

## 2人主治医制の効用 病診連携の効果

Kobe DM net以降、深まった中村先生との連携を通じて、川上先生が感じとったものはさまざま。

「何より、専門医の先生のお言葉の説得力は絶大です。のらりくらりと医師の指示をかわしていたような患者さんが、きちんと言うことを聞くようになっていたりしますから(笑)。2人が役割分担し、硬軟織り交ぜた診察や指導をできるのが連携の最大の効用ではないでしょうか。

私は最近、『いつまでに病院を受診してください』という意味で、『桜の咲くころに病院ですよ』とか、『七夕までに病院へ行ってください』と表現するようにしています。連携関係で病院と症例を共有する場合、患者

さんの理解を促すために、かかりつけ医には心に残る言い方が必要なのだというコミュニケーション上の発見などは、きわめて新鮮でした」(川上先生)

連携の効用に話題がさしかかり、黒木先生から発言があった。

「糖尿病の地域医療連携で、診療所の医師が強く効用を感じるのには、専門医の診察や処方以上に、実は糖尿病療養指導士や管理栄養士からの指導。つまり、チーム医療の力じゃないかと思います。連携未経験の診療所の先生方には、どんどん、連携を通して、病院のスタッフを利用していただけたらと考えています。専門スタッフからの指導は、文字どおり患者さんの意識を変えます。その変貌ぶりに、感心された先生方も少なくありません」(黒木先生)

中村先生が話を継ぐ。

「糖尿病医療にメディカルスタッフ、専門スタッフの力が大きいことは論をまたないでしょう。私もその点には強い確信があり、Kobe DM net拡大の鍵になるのではと考えています。将来的には、医師の連携関係に並行して病院と診療所間でメディカルスタッフの交流を促していこうと構想しています」(中村先生)

## どんな患者でも紹介できる 障壁のない連携システム

中村先生が80の施設と連携を構築



左から中村先生、黒木先生、川上先生



【資料3】

紹介状(診療情報提供書)

Kobe DM net (糖尿病地域連携) 診療情報提供書 (初回用)		平成27年3月29日	
糖尿病内科 担当医 先生 御侍史			
〒○○○-○○○ 神戸市○○区○○○○○○○ ○診療所 電話(078)-○○○-○○○○○ FAX(078)-○○○-○○○○○ 医師名: ○○ ○○ 敬			
(フリガナ)		性別	ID:(あれば)
患者氏名		男・女	生年月日 年齢
住 所	〒		
TEL	—		
紹介目的	Kobe DM net (糖尿病地域連携パス)での診療		
診断名	糖尿病 (□2型 □1型 □その他 □妊娠 □不詳)		
いつも大変お世話になり、有難うございます。 当院に □初診 □通院中 ( 年頃より) の患者さんを紹介致しますのでよろしくお願い致します。 紹介目的 □ 糖尿病教育入院を含む入院加療 □ 外来での診療 □ 血糖コントロール □ 適切な薬物の選定 □ 合併症 ( ) の評価 □ 管理栄養士による栄養相談 □ 貴院の方針通りで □ その他 ( ) □ フットケア □ 透析(腎不全)療養指導 □ 妊娠糖尿病の管理 □ 持続血糖測定(CGM)			
患者概要	糖尿病発症 年頃 または 歳頃	血糖値 mg/dl HbA1c % (別紙検査結果 □あり □なし)	
処方内容	□おくすり手帳の通り □別紙の通り □以下の通り		
眼科受診	□未受診 □通院中 ( ) 眼科 □その他 ( )		
今後の診療について	□引き続き、当診療所と貴院による連携での診療(典型的な循環型パス) □今回のみの診療および検査依頼 □当診療所への通院は終了とし、貴院あるいは他の医療機関での診療継続を希望 □その他 ( )		
以上、今後ともよろしくお願い致します。			
その他			
予約希望日	第1( 月 日/ 曜日)	第2( 月 日/ 曜日)	または、□大至急(電話連絡必要) □可能な限り早急 □いつでもOK

したのは成功例のひとつだが、現状Kobe DM netのすべてがうまくいっているわけではない。連携パスの運用が皆無に近い受け入れ基幹病院もまだある。

「糖尿病の地域医療連携が難しいのは、脳卒中やがんのそれに比して病院と診療所の役割分担が曖昧になりがちな点でしょう。全体の約2割を占める合併症のある、進行した患者さんはむしろ分担し、連携しやすいのですが、それ以外の約8割の症状が安定した患者さんをどう分担するかの基準づくりが簡単ではありません。そうした先入観が壁となり、Kobe DM netでは基本、すべての患者さんを対象としている姿勢が広く知られているとは言いがたく、広報不足を感じます。

また、すでに近隣で実質的な連携

と広く知らしめる必要があります」(川上先生)

「連携を開始するためのとりあえずの枠組みはできました。今後、大切なのは、神戸市の糖尿病医療において病院と診療所がスムーズに症例を共有できるようにこの連携システムを育てていくことです。

現在、協議会では、たとえば連携パスという名称が、『手間がかかる』ことを連想させるなら名称を外しても良いし、連携パスそのものを廃止しても良いのでは——とさえ議論しているところです。将来的には、病院と病院の間でも相談の輪が広がるような連携を構築するために、あらゆる方向から吟味して修正する考えです」(中村先生)

方向修正を理にかなったものとしようと、最近、5病院で行っていた

協議会に医師会からの世話人を2名加える新体制をつくった。神戸市の糖尿病医療のためにKobe DM netができることをどこまでも追求していく覚悟の表れと言えるだろう。

最後に、中村先生が、Kobe DM netのめざす理想の姿のひとつを解説してくれた。

「一言で言えば、糖尿病の患者さんが暮らしやすく、医療機関に受診しやすい環境を醸成していきたいです。『ちょっと、糖尿病の治療に行ってくるわ』、『おお、行っといで』といった会話や、『あんた血糖値高いな、すぐにお医者さんへ行きい』などの会話が、日常的にあちこちで交わされる風景をイメージしています。

より多くの糖尿病の患者さんに、より機嫌良く元気で長生きしてほしいという思いは専門医も専門医でない先生方もいっしょのはず。力をあわせて幸せを膨らませるために機能する道具として、Kobe DM netが頼られる存在になってほしいと願っています」(中村先生)

地方独立行政法人神戸市民病院機構  
神戸市立医療センター西市民病院  
〒653-0013  
兵庫県神戸市長田区一番町2-4  
TEL: 078-576-5251

医療法人社団顕鐘会  
神戸百年記念病院

〒652-0855  
兵庫県神戸市兵庫区御崎町1-9-1  
TEL: 078-681-6111

すみこ内科・循環器科

〒653-0055  
兵庫県神戸市長田区浪松町2-2-19  
TEL: 078-737-1688